

登美丘地区防犯委員会（大阪府）



合同パトロール みんなで楽しくパトロール

人をつなぎ・世代をつなぎ～防犯を入口にまちづくり

1 活動概要

大阪府堺市の中央東部に位置する登美丘地区は閑静な住宅地です。計画的に開発された良好な住宅地と歴史ある古い街並みも共存し、水辺空間も豊かで自然も残っています。南海高野線の急行停車駅北野田駅を中心に人口約 43,000 人の地域です。

住民を主体とした防犯委員会と地域型NPOさかいヒルフロントフォーラムが中心となり、自治会・各種団体をつなぎ、警察・学校・行政と連携して子どもから高齢者まで世代を超えて200人以上が参加する合同夜間パトロールをはじめとした防犯まちづくり活動を実施しています。人をつなぎ・世代をつなぎ、登下校時の子どもの見守り、駅頭での朝のあいさつ運動、清掃活動、青色防犯パトロール車による啓発活動、文化芸術活動、スポーツ活動等を活発に実践し、防犯まちづくりからスタートした活動を地域のまちづくりに活かしたいと考えています。また、活動に先端技術も取り入れながら、想いの共有が地域向上のカギになり、地域のつながりが課題解決の力になると信じて、崇高な理想を持って、身近な活動に取り組んでいます。コミュニティFM局も開局しました。構築したシステム情報広場の有効な活用も模索しています。

地域活動が新しい社会を構築する。人の力が全てを決する。そのために警察・学校・行政と私たち住民がしっかりと連携してハード面・ソフト面での向上をめざし、安全で安心して暮らせるまちづくりに貢献したいと願っています。

2 主な活動内容

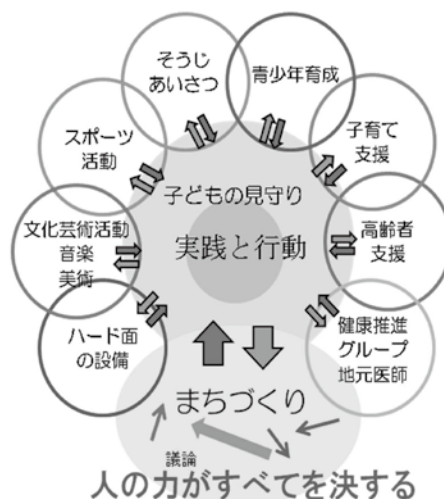
- 大規模合同パトロールの実施（意見交換会も兼ねる。）
- 会議・フォーラム・シンポジウム・ワークショップの実施と文化芸術からの防犯活動
- 防犯灯の整備（センサーライトの設置にはじまり、インバータ式やLEDの整備。防犯カメラの設置。）

- 高校生・小学生と朝のあいさつ運動、防犯スポーツ活動、子育て支援、高齢者支援、清掃活動等
- 青色防犯パトロール車2台の運用（堺市東区登美丘地区と白鷺地区）
- コミュニティFM局からの情報発信と、情報広場による情報共有

3 活動の特徴

(1) 組織

登美丘地区防犯委員会は、地元のNPO法人さかいヒルフロントフォーラムと一体となった活動を展開しています。防犯委員は4つの自治連合会（約100の単位自治会）に属する住民とNPOのメンバーと合わせて約500名で活動しています。防犯まちづくりに取り組む中から生まれた地域の課題解決に向けて防犯だけでなく、さまざまな組織が生まれました。これらの人のネットワークが防災まちづくりや住んで楽しいまちづくりに生きています。また、防犯まちづくりにも還元されていると感じます。防犯委員会には、ヤングサポート隊・防犯ひよこ隊・防犯女性の会・子ども見守り隊をはじめ部会が幾つも形成され、重層的に活動を展開しています。



(2) 活動

地域の風物詩にもなっている約200人による合同パトロール（50人程度は定点で立ち番）をはじめ、さまざまな活動を実践しています。思考は実践と行動だと思っています。地域の若い世代自らも企画し、参加できる事業を実施したいと思っています。「権限を作らない、まずはやってみる、楽しく継続して」を合言葉に、さまざまな活動を進めていきたいと考えています。

(3) コミュニティFMと情報広場

防犯ひよこ隊の隊長である谷昭信氏をメインパーソナリティとして、子どもの見守りをテーマにした防犯まちづくりを中心に据えて、地域のさまざまな方を迎え、素人ばかりでFM放送を実施しています。文化芸術の発信にも力を入れ、行政情報や中学生・高校生による放送も実現できました。警察とは密接な連携を持ち、防犯情報を定時に流しています。情報広場は共通の目標のもとに活動を進めることができるように、位置コードを体系化し、GISと連携したシステムに組み上げ、運用コストが安価で専門的な技術要員がなくても運営できるクラウド型に完成しました。現在、東日本大震災の被災地の支援としてもこのシステムを提供しています。今後、FM放送と情報広場の利活用をより進め、安全安心まちづくりに向けての情報発信に努めたいと考えています。

4 メッセージ

活動を通して本当に多くの方と知り合うことができました。少子高齢化が進み、地域社会のつながりが希薄化している現代社会において、まちづくりの入口として防犯まちづくりに取り組むことは地域社会の再生、教育の再生にとって大きな意味があったと感じています。人のために活動する喜びを共有していくことは明るい地域社会を創るために大きなエネルギーをもたらしてくれます。防犯活動において、私たちの活動がどれほどの効果があったのか分かりませんが、警察署との信頼関係の構築が最も防犯まちづくりに効果を発揮し、犯罪件数も減少した要因だと実感しています。日本国の治安安定のために私たち住民は自ら立ち上がり、さまざまな実践と行動を通じて警察との信頼関係を構築し、行政とも本来の意味の協働を一つでも実現し、安全で安心なまちづくりに、日本の未来に貢献できればと願っています。

登美丘地区防犯委員会（大阪府）

大阪府堺市から参りました、登美丘地区防犯委員会の代表の池崎と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、登美丘地区防犯委員会の活動をご紹介しますと思います。



活動概要

私たちは、防犯まちづくり活動を進めるに当たり、「人をつなぎ、人のネットワークを構築して、新しい地域社会を創りたい。少子高齢化が進み、日本の財政は悪化し、大きな災害も発生し、輝く将来を思い描くことが難しい状況の中で、地域再生・教育再生を掲げて、心の復興をめざしたい。」と思っています。

では、活動の様子を撮影したビデオ画像をまずご覧ください。

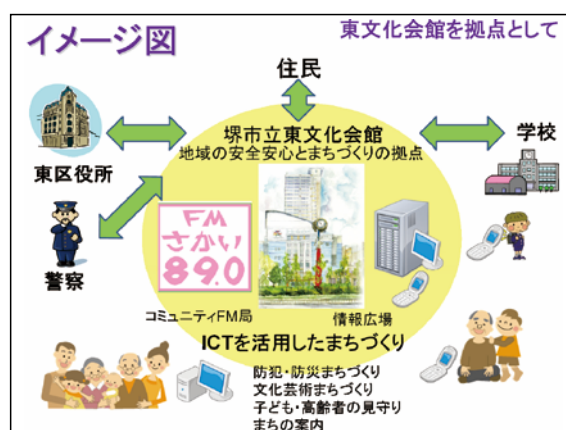
これは、合同パトロールをしている時の様子です。御覧のようにパトロールしています。服装はバラバラで統制がとれていない感じですが、防犯の権威主義を打破し、いつでも住民全ての人が参加しやすい防犯まちづくり活動を、という思いの表れでもあります。10歳代から80歳代まで、いろんな方に参加していただいています。動いている人数が約300名、別に動かないでまちを見守っている人が80名くらいいます。

警察、学校、地域住民の方々と防犯の意見交換を行う中で、いろいろなまちの課題が見えてきました。課題解決に向けて、さまざまな活動が生まれ、それらの活動が防犯まちづくりにも還元されていると感じます。人の力が全てを決する。一人では何もできませんが、みんなの力を結集して草の根の活動を進めていきたいと思っています。

登美丘地区防犯委員会は、住民の自主的な活動からスタートしました。行政から言われたわけではありません。平成17年には、防犯まちづくりのメンバーが中心となってNPOを設立し、現在堺市立東文化会館の指定管理者です。地元の高校生や大学生も協力してくれます。文化会館を拠点としているので、地域の吹奏楽団も結成し、防犯大会などで演奏していただきます。

安全・安心の目標に向かって力を合わす。防犯まちづくりは住民みんなの共通した想いです。フォーラムやシンポジウムもたくさん開催してきました。月に2回程度は意見交換会を定期的に行っています。さまざまな意見が出ます。それぞれ価値観が異なりますので、どの意見が正しいかではなく、出た意見を否定しないことを心がけています。

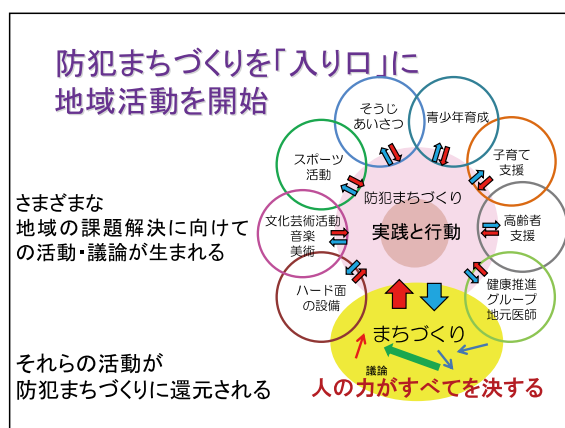
平成19年10月からは「犯罪からの子どもの安全」領域の研究プロジェクトにも取り組む機会を与えていただきました。子どもを見守るだけでなく、子どもたち自らが企画し、参画する事業も数多く実施してきました。



防犯まちづくりから、理想のまちづくりへ

私たちは、防犯まちづくりをスタートにして、地域再生・教育再生に取り組み、新しい地域社会を構築したいと考えています。地域活動はその原動力になると思います。人をつなぎ、世代をつなぎ、政策の責任を住民自らの責任と考え、活動を進めていきたいのです。私たち自らが立ち上がり、自らがまちづくりに参画し、住民のつながりによって課題解決をめざしたいと思います。地域の課題解決が国の命題解決につながると考えています。「想いの共有が地域向上のカギ、地道な地域活動を楽しみ継続して」その思いで活動を進めています。

崇高な理想を持って、出来る身近なことから。立ち上げたNPOを中心に、防犯委員会、自治会、その他関係各団体の協力の下に、「自己の権限を排し、相手を尊重し、何ものも排除しない。」という立場を貫きながら、行政、学校、そして企業も巻き込んで、住民と一緒に四者一体の活動を展開したいと考えています。理想とする社会はなかなか到達できるものではありませんが、諦めず、身近な地域の課題に取り組んでいきたいと思います。



さまざまな活動を推進

先程申し上げましたように、平成17年に東文化会館の指定管理者になりました。全国的にも珍しい形態ですが、住民だけで管理・運営に携わっています。みんなで力を合わせて一生懸命この東文化会館の事業を企画し、運営しています。

登美丘地区は、大阪府堺市の中央東部に位置する閑静な住宅地です。南海高野線の急行停車駅北野田駅を中心とした人口約43,000人の地域です。

安全・安心まちづくりは、住民主体の活動の入口としては、最適なテーマだと思います。平成19年度からは「子どもの安全」をテーマにした取組も進めてきましたが、地域でのまちづくりのテーマとして、誰からも異論もなく、多くの協力が得られました。このテーマのもとに議論することにより、地域の種々の課題が生まれます。あらゆる人の参加が得られ、どんどん活動が広がりました。朝のあいさつ運動、清掃活動、子育て支援や高齢者の支援活動、スポーツ活動、また地元医師による健康推進グループも結成されました。これら地域に芽生えた多くの活動全てが防犯まちづくりに活かされていると思います。



いると思います。

さまざまな活動を写真で紹介します。

<合同パトロール>

これは、合同パトロールの様子です。青色パトローカーは2台運用しています。登美丘地区防犯委員会はお金がありませんので、NPO法人によって管理し、動かしています。堺市から青パトの車は提供していただけるのですが、パトカーと同じ色なので、あえてい

ただいていません。警察の活動と私たちの活動には、明確な区別をしておきたいからです。企業の協力や研究プロジェクトの資金で用意しました。

<意見交換会・シンポジウムなど>

意見交換会やシンポジウムの開催風景です。大規模なシンポジウム、小さな意見交換会など、さまざまな会を開催しています。

<清掃活動・朝のあいさつ運動など>

清掃活動の様子です。防犯活動のスタート時は、朝6時から公園の清掃を行い、夜は地域の青少年の集まる場所へ出向いて毎日掃除をしてきました。現在は、朝の早い時間や夜中の清掃はしていません。地域挙げての清掃を地元の学生と一緒に年に数回行っています。また、駅頭で朝のあいさつ運動を4年前から始めました。通勤通学の皆さんへ「おはようございます」と元気な声で、高校生約40名と一緒にあいさつをします。当初は誰もあいさつを返してくれませんでした。1年も経てば、皆さんニコリあいさつをしてくれるようになりました。通学の子どもたちの見守りは登下校時毎日行っています。

<子育て支援・高齢者支援>

東文化会館や地域の会館を拠点にして、子育て支援や高齢者支援の活動もしています。本当に多くの方々に参加していただき、活動を進めています。高齢者の皆様には、一緒に食事会を開催したり、リハビリ活動を行っています。

<防犯灯の整備>

ハード面からの取組として、防犯灯の整備を進めてきました。全国で初めて公道にセンサーライトを設置することからはじまり、インバーター式防犯灯への変換、現在はLED防犯灯や防犯カメラの設置を行っています。行政の補助金を活用して進めている事業です。

<スポーツ・文化活動>

警察官の方も参加頂いて、小学生・中学生・高校生、地域の若者も参加できる大会を開催しています。警察官との対抗ソフトボール大会も行いました。最近では10月16日、運動会を開催し、12月3日は地域挙げての防犯スポーツ大会を開く予定です。

文化活動も活発に行っています。地域の総合文化祭ということで、世代をつなぎ、各種演奏会、作品展、狂言のワークショップ、お茶会等を東文化会館で行います。

<研究プロジェクト>

「犯罪からの子どもの安全」領域の研究プロジェクトに取り組む機会を与えていただきました。子どもの見守りをテーマに活動を進めることにより、地域でのさまざまな活動が活性化され、関わる人の拡がりも大きくなりました。科学的見地からの研究を進めることで、大学の先生方との連携も深まり、学生の若い世代の協力もいただき、私たちの地域活動が画期的に深化したと思います。研究で得られた財産を大切に、活用していきたいと考えています。

<「コミュニティFM」と「情報広場」>

想いの共有が地域向上のカギ



フォーラム・シンポジウム・意見交換会



地道な地域活動を楽しく継続して



あいさつ運動
清掃活動



平成22年にコミュニティFM局も開局しました。毎日24時間放送しています。防犯ひよこ隊長である谷昭信氏をメインパーソナリティとし、地元の小中高生にも参画してもらっています。また、地域の防犯活動をしている住民はどなたでも放送に参加していただいています。警察とは、特に密接な連携を持ち、防犯情報として地域に密着した防犯ニュースを毎日流しています。また、情報共有を進めるツールとして、「情報広場」のシステムを立ち上げました。位置コードを体系化し、GISと連携したシステムで維持費が安価で、専門的な技術要員がいなくても運営できるクラウド型に完成しました。東日本大震災の被災地においても利用していただいています。今後FM放送と情報広場の利活用を進め、安全安心まちづくりに貢献できればと願っています。

コミュニティFM

エフエムさかい 89.0MHz

- 警察や住民と連携した防犯情報の発信
- 小・中・高校生による番組の企画・発信
- 絵本・児童書の読み聞かせ
- 地域活動の告知
- 地元ゆかりのあるアーティストの招聘
- 文化芸術活動の告知
- 地元医師による健康相談
- 防災情報の発信

情報広場との利活用



情報共有システム『情報広場』

お知らせしたい → 書き込む → 見ることができる → メールが届く

ホームページ
<http://www.shff.or.jp>
E-mail
890fm@shff.or.jp
FAX
072-234-8131

ツイッターに配信

写真・地図も表示できます
位置コードも表示されます

東文化会館を拠点とした
【防犯まちづくり】【防災情報】【文化芸術情報】を発信・共有

犯罪発生状況

平成12年には登美丘地区で、ひったくりが116件発生していました。平成22年にはその16%にまで減少しました。あまり数字にこだわらたくありませんし、だからより安全になったというわけではありませんが、大きな成果の一つだと思います。私たちだけの力ではありません。なによりも警察との連携による活動の成果、警察との信頼関係の構築が犯罪を減らす一番の方法だと確信しています。

登美丘地区における犯罪発生状況 H12年～H22年									
	ひったくり	車上ねらい	窃盗和らい	自動車盗	オートバイ盗	自転車盗	自転車ねらい	路上強盗	総合計
12年	116	90	52	27	80	113	60	1	539
13年	82	244	65	40	95	154	42	3	725
14年	69	203	71	42	81	159	35	1	661
15年	42	119	77	20	102	134	24	0	518
16年	28	67	55	19	89	106	9	4	377
17年	22	67	82	16	100	130	11	0	428
18年	25	63	76	17	57	157	8	0	403
19年	14	42	75	15	39	151	15	2	353
20年	10	36	52	9	30	119	9	0	265
21年	20	32	69	6	22	189	6	0	344
22年	12	23	41	3	17	17	1	0	114
									100%
									91%
									71%
									52%
									59%
									56%
									49%
									37%
									47%
									16%

活動の成果

実現したいこと・できたこと

1. 地域のつながりが深まった。

防犯まちづくりだけでなく、地域住民主体のまちづくりを進める基盤ができたと感じる。コミュニティFM局と情報広場を利活用して活動を深化させていきたい。

2. 警察との信頼関係が構築できた。

防犯まちづくりを進めている中で、警察との信頼関係の構築がまちを安全・安心に導いたと感じます。日本型安全・安心を実現したい。

3. 行政との協働がなかなか実現できない。

さまざまな課題解決の過程で、住民と行政の本来の協働を図りたい。

活動の成果としては、まず、訴えたいのは、防犯まちづくりからスタートした地域活動により、人のつながりが深まったことです。東文化会館の指定管理者になり、住民が企画運営できることにより、私たち自らの活動をそこで実施し、住民の力を合わせての協力が得られ、人のつながりが本当に深まりました。

防犯の観点からは、活動を通じて警察との信頼関係が大きく構築されたことです。この住民と警察との信頼関係こそが、犯罪減少に大きな効果を発揮すると実

地域活動を成功へ導くカギ

1. 活動拠点の確保と活動資金の確保
2. 自らの組織体における権威の排除
と他者の社会的権威の尊重
3. あらゆる人を排除しない組織体の形成
4. リーダーとリーダーを取り巻く人の輪の構築
5. 地域のあらゆる活動をそのまま認め、連携を図る
6. 明確な目標(崇高な理想)
と具体的な方法論(現実の対応)



感しています。日本は、「世界に冠たる安全な国家」、現在も依然としてそうだと思います。今、ここに、私たち自らが立ち上がって、警察と共に安全安心をめざして進んでいくことが大切だと思います。

他方、行政との「協働」はなかなか実現できていない。本当に難しい。さまざまな議論をし、小さなことでもいいので、本来の意味での行政との協働を成し遂げたいと思います。

地域活動を成功へと導くには、活動拠点が必要です。

活動資金も必要です。しかし、許された状況の中で活動を進めていくために、まず住民自らが立ち上がり、自らの組織の権威を排除し、協力を仰ぐ組織の社会的権威を尊重し、あらゆる人を排除しない組織体をつくり、人をつないで人の和を拡げ、崇高な理想を持って、現実の身近な問題解決のために活動することが大切だと思っています。

●質問 300人もの人が合同パトロールに参加されているということが大変印象的だったのですが、これだけの大人数の人を動員するために工夫されているようなことはありますか。

○回答 工夫をしていることは特にありません。防犯まちづくりのテーマは誰でも共感できるテーマであり、何か防犯活動を実践することにより、皆の想いが集まり、その想いの強さが人をつないでいくと感じています。大人数での合同パトロールには異論もありますし、方法論で意見がぶつかることもしょっちゅうです。しかし、まちをより良くしたい想いは、皆が共有できる目標なので、方法はさまざま異なっても、防犯まちづくりの活動は地域の内外に拡がると思います。

●質問 さきほど行政との協働がなかなかできないというお話がありました。もう少し詳しくお話しいただけますか。

○回答 距離の遠いと思っていた警察とは非常に良好な関係が築けました。警察は現場をもっているからだと思います。行政とは未だ距離感があると実感しています。防犯まちづくり活動を進めていく中で、行政ともさまざまな接点が生れますので、本来の協働をたった一つの突破口でもいいので見つけ、良好な関係を構築できるよう努力したいと思います。

経験した例として、私見ですが、住民自らによる防犯活動を呼びかけ実施した時、警察は「これからは皆様の力もお借りして犯罪を防ぐ必要があります。」また、犯罪が減少した時、「犯罪の減少は住民皆様のおかげです。」と言われました。行政の方は「私たちは充分対策を講じている。これからは住民が自ら防犯活動を行う必要がある。」と言われました。活動を進めていく中で、警察との連携による活動が増えます。犯罪の減少は誰が考えても警察のおかげだと思うのです。また、住民自らが立ち上がろうとの呼びかけは、住民自身が自らに向かって行う言葉だと感じるのです。これはほんの一例ですが、相手の立場を尊重していただく警察との信頼関係がまず構築できた所以だと考えています。